

## 第五回委員会議録

日時	令和3年2月15日 13:30～15:40		場所	オンライン ※事務局拠点： 中央区役所対策室1
出席者 (敬称略)	委員		栗野隆委員長・金出ミチル委員・ 松本恵樹委員・山崎誠子委員	
	アドバイザー		青木達司(文化庁文化財第二課)	
	オブザーバー		山崎忠良(新潟県教育庁文化行政課)	
	新潟市関係課担当職員		中央区地域課：高見 中央区建設課：牧野	
	指定管理者		阿部・中川・久保	
	事務局	新潟市歴史文化課	遠藤・廣野・小池・田部・古俣	
(株)文化財保存計画協会		矢作(記録)		
内容： 第五回委員会議録(委員等からの意見・指摘事項等)				
<p><b>報告事項</b></p> <p>(1) 測量成果および本年度庭園工事の状況について(資料1、2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、東京農業大学の國井先生の研究室でも3D測量をしている。そのデータは見ているか。また二つのデータで比較検討した方が良いか考え方をみなさんにお聞きしたい。今年度の積雪の被害について説明を頂きたい。(松本委員)</li> <li>→大きな雪の被害は確認されていない。主屋の2階のトイレの窓ガラスが割れたのみである。(事務局)</li> <li>→以前の3Dデータは確認している。以前の測量のデータは数か所の測量で粗いデータであった。今回の測量データは計測地点が多く精度の良いデータとなっている。比較する場合は基準点の座標など調べなければいけないことがある。(文計協)</li> <li>・3D測量成果に関心がある。目視による調査では分からないことも判明すると思う。樹木の上部も計測できているので、どの程度高い所から計測したのか伺いたい。(金出委員)</li> <li>→今回の計測は地上型レーザースキャナで実施している。地上型の弱点として樹木が多い場所では上部が計測しづらいことがあるが、今回の機材では良く計測された。樹木の上部は揺れが激しかったりし、なかなか難しい点がある。これはレーザースキャナの性質上仕方ないことである。(文計協)</li> <li>・3Dデータを確認して築造における庭園の特徴など新たな発見があったか。(金出委員)</li> <li>→今回の目的は実施設計に使用するためなので、調査研究についてはまだ実施できていない。(文計協)</li> <li>・石の洗浄の苔の残し方について、湿度がたまる箇所は残り、乾燥している箇所は取れたりすることがあるが、どのような判断、配慮をしたのか。イスノキの件について元々の形に合ったものを吟味する時間はあるのか。補植する場合、施工時は枯れ保障が通常あるが、新潟の砂質土に適合するかの不安がある。どのように考えているか聞きたい。(山崎委員)</li> <li>→イスノキについて今年度の施工予定であったが、庭園の修理を第一ととらえれば樹木の選定に時間をかけることは止むを得ない。その点も踏まえて議論いただければと思う。土壌条件については、事前に栗野委員長から意見をもらっており西日本からの供給は控えた方がよいと意見を頂いている。これらの意見を参考に進めていきたい。(事務局)</li> <li>・なるべく時間をかけて当初に近いものを選んだ方がよい。土地条件が特殊なので通常の公園を作るように樹木を選ぶのではなく、配慮があることが望ましい。(山崎委員)</li> <li>・山崎委員と同意見である。時間をかけて補植するイスノキを選定すべきで</li> </ul>				

- ある。(松本委員)
- ・一般見学ルートの最初に通る場所であり、庭園の第一印象を決定付ける場所である。樹木の大きさは成長に伴い近づけることはできると思う。株立所か単木かの樹形の在り方は最初の出発点として大事であるため、山崎委員、松本委員の意見の通り、どのようなイスノキを植えるか時間をかけて吟味すべきである。(栗野委員長)
  - ・洗い出し舗装の材料について、写真で見ると非常に似ている。産地はどこか。最近は大磯のものが多い。見たい目が同じなので材料としては問題ないと思うが、青木調査官に意見を伺いたい。洗い出し舗装について補修対象はこの場所だけか。(松本委員)
  - 洗い出しを補修する必要がある箇所は他にもある。今年度予定しているのは資料の範囲である。また、山崎委員の景石洗浄の意見について、苔の除去についてもらっている。施工後に現場を見たが景石が自然に顕在化され違和感のない仕上がりとなっている。(文計協)
  - ・洗い出しの修理の方法については検討の余地があるとのことだが、セメントモルタルを除去して新しく洗い出し舗装を敷設する方や、現状の種石を一つ一つ洗浄し再利用してやり直す方法と、技術的に可能かわからないが脱落した箇所のみを補修する方法が考えられ、撤去して新規に敷設し直すのが一番簡単であるが、現状の洗い出しが大正時代の齋藤家の施工である場合、大正時代の仕事を壊してしまうことになるため、各委員の意見や青木調査官の意見を伺いたい。(栗野委員長)
  - 近現代庭園の特色としてモルタル舗装があり、本庭園にあることが特色である。栗野委員長が指摘するよう、当初のモルタル舗装をそのまま保存するのではなく、50年前のものであれば直せば済む話だが、当初施工した段階に別個の石を埋め込んでおくと、材料の劣化が深刻である。種石を叩き込めると、その石が脱落する可能性がある。(金出委員)
  - 将来的なことを考へると一度撤去して舗装し直す方が耐久性は良いと思うが、現状の種石を青木調査官と一せか意見を取れば、再利用して舗装し直す方が施工するのが良い。最後の事例などを考へると、部分補修の方法だと、また同じ状況になると思う。残せそうなる個所は再考する必要がある。この重要性を考慮する場合は、当初の施工で残すことが多い。この洗い出しが当初の施工か調査部で残して、庭園の機能を保つため、庭園の景観を担うべき役割を補修する必要がある。青木調査官の意見を聞いてみると、金出委員の意見に近いと感じた。当時の仕様に施工する必要がある。(栗野委員)
  - 今年度施工を指している。(事務局)
  - 工法についても決める必要があるか。(栗野委員)
  - 大きくなるとは検討した。事務局で検討したい。(事務局)
  - 懸念しているのは、今年度施工予定の個所が築波石の階段であり、大正時代の庭個所と考える。事務局の方でその判断材料をそろえることは可能か。(栗野委員長)
  - 洗い出しの履歴の資料は確認できていない。(事務局)
  - 洗い出しの履歴についての資料は見たことがない。コンクリートの分析をす

- ればわかるかもしれないが、庭園のモルタル等における調査方法などあったら教えていただきたい。実際に試料分析する場合は現況の工作物の一部を壊し採取する必要はある。(文計協)
- 洗い出しの箇所は周りの様子と合わせて現地を見ることで履歴の前後関係が分かるかもしれない。そのような調査を実施の上、考察していただけるとありがたい。栗野委員長はこのような仕上げについて専門かと思うが、いつごろから流行ったのか等分かるか。(金出委員)
- 洗い出しに関しては明治時代からある。庭園の階段は分からないが軒内に使われるのは昭和初期の住宅には多い。(栗野委員長)
- 以前、登録記念物になった前に庭園の調査をし、どの園路が齋藤家時代か、加賀田家時代に改変されたものか使用されている石材から時期変遷を区分した。これを参考に事務局で確認して、施工予定の園路が調査研究上、どの時代に作られたものか推定し知見をまとめて修復方針を検討してほしい。齋藤家時代の蓋然性が高まるようであれば、モルタルの材料配合などを参考に補修してほしい。松本庭師が大正時代に施工した材料が残っているようであれば現状の種石も無駄にはできないので、種石も保存するような方法を検討してほしい。(栗野委員長)
- いただいた意見をもとに事務局で検討する。以前の調査資料も確認して園路の年代特定を実施する。(事務局)
- ・縦穴排水を施工して結果良好であると伺ったが指定管理者に現場の効果を伺いたい。(松本委員)
- 庭園担当者に確認して、実施した後の方が間違いなく効果があるとのこと。(事務局)
- ・標柱の石材が地元産だと安田石と思うが別の名前を言っていた。(松本委員)
- 使用したのは草水石である。地域名かもしれないので確認する。(文計協)
- ・東京農業大学の國井先生が池の水を抜いた状態で護岸と溪流だけを三次元測量してもらったが、今回が池の水がある状態で実施しており、合成が可能であれば、今後の実施設計等にも役に立つと思うので、そのデータを市に提供可能か確認したいと思う。(栗野委員長)
- 三次元データの合成については技術的な観点があるので検討するが、今回は池のデータは取れていないので、合成については試したいと思う。(文計協)
- 國井先生にデータがまだあるか確認して市に提供可能か確認する。(栗野委員長)